

海外感染症流行情報(2012年8月)

・アジア地域でのデング熱流行状況

東南アジアは雨期を迎えており、デング熱患者の増加がみられています。WHO 西太平洋事務局によれば、今年は8月初旬までにフィリピンで約4万6000人、ベトナムで約1万8000人、カンボジアで約1万4000人、マレーシアで約1万3000人の患者が報告されています(WHO Western Pacific Region HP 2012-8-9)。ほとんどの国で患者数は例年並みですが、カンボジアでは昨年の3倍の数です。また、ベトナム保健省の報告では中央高地の患者数が昨年の70%増になっています。(米国CDC Dengue Map 2012-8-13)。

南アジアでも各地でデング熱の流行が発生しています。インドのムンバイでは7月末に3人がデング熱で死亡しました(米国CDC Dengue Map 2012-8-2, 8-10)。コルカタでは8月上旬までに患者数が144人になりました(Pro MED 2012-8-13)。スリランカでは全土で1万1000人の患者が発生しており、53人が死亡しました(Pro MED 2012-8-13)。

台湾の南部では今年になり70人以上のデング熱患者が発生しています。とくに8月に入ってからには台南などで患者数が増加している模様です(米国CDC Dengue Map 2012-8-13)。

流行地域に滞在する際には、媒介する蚊に刺されないようご注意ください。

・東アフリカでエボラ出血熱が流行

ウガンダ西部のKibaaleで7月よりエボラ出血熱の患者が発生しています。8月17日までに患者数は24人(確定は11人)になり、このうち16人が死亡しました。死亡者の9人は同一家族です。キバレで感染した医師1名が首都のカンパラに搬送され死亡しましたが、カンパラでの二次感染は起こっていません(WHO Global Alert and Response 2012-7-29, 8-17)。

隣国のコンゴ民主共和国でもエボラ出血熱の患者が発生しており、東部のOrientale州で患者数は15人(うち10人死亡)に達しています(WHO Global Alert and Response 2012-8-21)。

検疫所のホームページ上にエボラ出血熱の解説が掲載されていますので、ご参照ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2012/08221034.html>

・米国で西ナイル熱患者が急増

米国では西ナイル熱が毎年夏に流行していますが、今年は例年になく大きな流行になっています。8月21日までに確認された患者数は1118人で、昨年の年間患者数(712人)を既に越えました(米国CDC West Nile Virus page 2012-8-21)。半分以上の患者が髄膜炎や脳炎など神経系の重篤な障害をおこしており、41人が死亡しました。患者の75%は南部州での報告で、とくにテキサス州は537人と最も多くなっています。こうした状況を受けてダラス市は8月16日に緊急事態宣言を発出しました(外務省海外安全ホームページ 2012-8-21)。

西ナイル熱はイエカに媒介されるウイルス性疾患で、有効なワクチンや治療薬はありません。予防には蚊に刺されない対策をとります。イエカは夜間吸血する習性があるため、流行地域で夜間外出する際には、皮膚を露出しない服装をしたり、昆虫忌避剤を使用してください。

・アジアの熱帯・亜熱帯地域でインフルエンザ患者が増加中

WHO の発表によれば、8 月になりアジアの熱帯・亜熱帯地域でインフルエンザの患者が増加しています (WHO Influenza 2012-8-17)。とくに患者が多いのは中国南部、ベトナム、シンガポール、バングラディッシュ、インド、スリランカなどで、いずれも雨季を迎えている地域です。

熱帯・亜熱帯地域ではインフルエンザが雨季に増える傾向があります。これは、雨が降ると人々が屋内で過ごす時間が長くなり、飛沫感染をおこしやすい環境になるからです。熱帯・亜熱帯の雨季にはインフルエンザ予防のため、手洗いやウガイを励行するようにしてください。